

2017年6月		
筆者	所属	千葉県農林総合研究センター 生産環境研究室
	職名及び氏名	研究員 松村 広貴
題名	水田の電気柵は除草剤等で下草管理	
備考	<b>【図説明】</b> 水稲栽培における電気柵の下草管理作業体系 注1) 千葉県の水稲栽培は早期栽培が主流 2) 除草剤の活用で草刈り作業を3回程度省略できる	

千葉県ではイノシシによる農作物被害が深刻になっています。作物別では水稲の被害が最も多く、その対策が求められています。被害圃場では、イノシシ侵入抑制効果の高い電気柵を設置するケースが多いものの、電線に雑草が接触し漏電することにより、効果が低下する事例がよく見られます。そこで、イノシシの侵入頻度が高まる出穂期から収穫期までの約1か月半の間、雑草の接触を防止するための省力的な電気柵の下草管理方法を明らかにしました。

出穂期から収穫期までの期間に、地上高20cmの電線への雑草の接触を防ぐためには、まず、出穂期に刈払機による草刈りを行い、その約5日後に、①除草剤のグルホシネート液剤（バスタ液剤等）1回ないし2回散布、②グリホサートカリウム塩液剤（ラウンドアップマックスロード液剤）1回散布、③抑草剤のビスピリバックナトリウム塩液剤（グラスショット液剤等）2回散布のいずれかを行います。2回目の薬剤散布は、雑草が20cm以上に伸長する2週間後が適切です。グルホシネート液剤は1回散布で十分効果はありますが、雨が多いなど雑草の生長が旺盛な年は2回目を散布します。グリホサートカリウム塩液剤は1回散布で十分な効果がありますが、地下部まで枯らし地表面が露出する場合がありますので、傾斜のある畦畔では使用を控えます。

電気柵の下草管理が適切に行われていてもイノシシに侵入されるリスクはあります。電線を支柱の外側に配置する、地面に凹凸がある箇所では起伏に合わせて電線の高さを調整する等の正しい設置を心がけてください。（640文字）

月・旬		7月	8月			9月
		下	上	中	下	上
イネの生育ステージ		出穂期 ●—●	乳熟期 ●—●			収穫期 ●—●
作業内容	草刈りのみ	草刈り ↔	草刈り ↔ (2週間間隔)	草刈り ↔		草刈り ↔
	草刈りと薬剤散布	草刈り 散布 ↔ ↔ (草刈り約5日後)		散布 ↔ : (1回目散布2週間後)		

水稲栽培における電気柵の下草管理作業体系

注1) 千葉県の水稲栽培は早期栽培が主流

2) 除草剤等の活用で草刈り作業を3回程度省略できる